

第3回 小石原川ダム環境保全対策検討委員会 議事要旨

日 時：平成27年3月11日（水）13：30～16：00

場 所：水資源機構 朝倉総合事業所 1F 大会議室

出席者：（委員）古賀委員長、荒井委員、飯田委員、小野委員、松井委員、真鍋委員、
森本委員、山根委員

（事務局）12名

資 料：

議事次第

資料－1 第3回小石原川ダム環境保全対策検討委員会 出席者名簿

資料－2 小石原川ダム環境保全対策検討委員会 設立趣意

資料－3 小石原川ダム環境保全対策検討委員会 規約

資料－4 小石原川ダム環境保全対策検討委員会 委員名簿

資料－5 小石原川ダム環境保全対策検討委員会の公開方法について

資料－6 第2回小石原川ダム環境保全対策検討委員会 議事要旨

資料－7 第3回小石原川ダム環境保全対策検討委員会 説明資料

審議内容等：

1. 事業の進捗状況について

小石原川ダム建設事業の流れ、工事進捗状況と平成27年度工事予定、事業全体の予定工程について、事務局より説明され、委員会として内容を確認した。

2. 前回委員会の審議結果について

前回委員会の意見等について、事務局より説明され、委員会として内容を確認した。

3. 保全対策等の取組みについて

生息環境等の整備、植物の重要な種、動物の重要な種、その他について、事務局より説明され、内容を審議した。審議の結果は次のとおり。

- ・生息環境等の整備については、資料に示された今後の対応のほか、生態系にも考慮しつつ、各委員と個別に相談しながら検討を進めた方が良い。
- ・フクロウについては、樹洞がある大きな木があれば街中でも繁殖する事例があることから、その要素も一緒に考えた方が良い。
- ・ミヤマチャバネセセリについては、昔に比べ個体数が減少しているが減少要因が解明されていないため、ススキ等の草地の復元・整備をする際はダム要因以外の本来の減少要因が潜在的に存在している点について留意しておいた方が良い。
- ・オオムラサキについては、幼虫の食草となるエノキの植栽だけでなく、成虫の餌になるクヌギ等も一緒に植えると本種の保全がより効果的となるため、可能な範囲で配慮した方が良い。
- ・湿地環境の整備については、他事例の情報を参考にしながら、具体的な整備内容や維持管理のことも念頭に置きながら、引き続き、検討を進めた方が良い。
- ・植物の重要な種については、資料に示された今後の対応に沿って進めていくことで良い。
- ・コキクガシラコウモリの代替横坑については、整備後のことも念頭におき、資料に示された対応のとおり、早期整備完了を目指して進めた方が良い。
- ・新たな重要種であるカジカガエルについては、流水域を産卵場としており、河川を

切り換える時期が産卵期、および幼生期と重ならないよう配慮した方が良い。

4. 専門部会の報告について

委員会に報告することとなっている専門部会の審議内容として、クマタカ検討部会の進め方、5つがいの繁殖状況、クマタカ検討部会での主な審議内容について、事務局並びに部会長より報告され、委員会として内容を確認した。

以 上